

地域バイオプロセスWG活動について

—2018年末までに技術的課題抽出と技術開発戦略提案へ—

技術の特徴

「バイオプロセス」は、農林水産業、食品産業等の現場で扱われる生物資源を高付加価値化し、食品または非可食製品に転換するための穏和な変換技術として、高い期待を集めている。各地域では、高品質な発酵食品製造プロセスの開発競争が激化する。その一方で、国内外では、ゲノム編集技術による農作物や生体触媒の高機能化、スマートセルインダストリー(生物による物質生産)技術開発等の競争が激化しており、両者の技術開発内容には隔たりがある。

このような中で、国内で新バイオ産業を創出するためには、地域で社会実装可能なバイオプロセスとその開発戦略の絞り込みが急務となる。そこで、食品研究部門では、2017年2月に「地域バイオプロセスワーキング・グループ(WG)」の活動を開始した。2017年7月末日現在で参加登録者191名(企業44名、大学等83名、研究機関50名、行政等14名)。

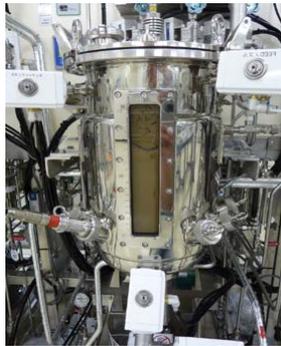
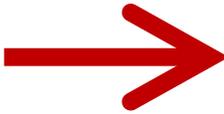
研究の内容

本WGでは、事務局(生物資源変換ユニット内)が管理・運営するメーリングリスト(ML)上で、事務局からの技術情報提供を行っている。一通りの情報を整理した段階で、主にML上での情報交換、討議、意見集約等を通じて論点整理を図る。農研機構食品研究部門において、「地域バイオプロセス構築に向けた技術的課題と新技術開発戦略(仮題)」を策定し、各方面に働きかけることで、地域バイオプロセス構築に向けた取組の活性化を図る。

地域資源

革新バイオプロセス

地域バイオ産業



● 技術情報の提供内容

【情報1】米国のバイオプロセス関連シンポジウム(39thSBFC)概要(20170310)

【情報2】日本ワイン(20170311)

【情報3】GM植物開放系栽培(20170314)

【情報4】三重リファイナリ取組(20170404)

【情報5】リグニン(20170515)

【情報6】食料・農業・農村白書等(20170617)

【情報7】ものづくり白書(20170617)

今後の展開

2017年度末頃までに検討のための技術情報を一通り整理し、2018年末頃までに論点整理する。

参 考

生物資源変換ユニットHP上で、本WGでの情報提供内容(PDFファイル)を紹介中。

<http://www.naro.affrc.go.jp/nfri-neo/introduction/chart/0605/index.html>



農研機構
食品研究部門

代表研究者： 徳安 健、池 正和、山岸 賢治
所 属： 食品生物機能開発研究領域
生物資源変換ユニット

問い合わせ先： 交流チーム： 029-838-7980